

令和3年度第2回地球温暖化対策実行計画策定部会における意見要旨

| | 委員の意見等 | 回答 |
|---|---|--|
| 1 | 前回と比較し、市民アンケートの回収率が良いのは、途中で催促のはがきを送付したことによる効果と思われるが、はがきを送付する前と後で回答数がどう変わったのか、参考に教えていただきたい。 | 8月26日にアンケートを送付し、9月3日にお礼と催促のはがきを送付した結果、9月8日に約400通の返信があった。事務局としても催促した効果と考えている。 |
| 2 | 資料2の6ページの土地利用状況について、農耕地は約37%と大きく減少しているのにもかかわらず、田畑・山林等、全体で見ると大きな影響がないのは何故か。また、7ページの緑被率について、草地面積が増加しているのは、利用放棄なのか、何か目的があって草地としているのか。同じ緑被率にしても、今ある草地の状況により、今後の検討内容も変わってくるため、そのような視点も必要ではないか。 | 農耕地面積大きく減少しているが、枚方市内に残っている農地が少ないため全体として大きな影響が出ていないものと考えている。なお、草地については、航空写真により面積を出しており、個々の状況までは把握できていないのが現状。 |
| 3 | 資料2の7ページの緑被率のうち、園地が大きく増加している理由や園地の内容は何か。 | 山田池公園が元々農地であったことや、公園の拡大等による増加と考える。 ※「緑被率の変化と緑被面積の推移」の詳細については、本資料P.4参照 |
| 4 | 緑被率は33%前後で20年間推移しているが、この数字が枚方市として好ましい数字なのかも調べていただきたい。結果によっては、今後の検討内容にも関わってくると思われる。 | 次回の自然環境調査では、状況等についても調べていきたい。 →環境基本計画の環境指標では、市全域における緑地面積の割合について、2030年度は現状を維持することを目標としている。 |
| 5 | 資料2の1ページについて、市内の平均気温は上昇傾向にあると説明されているが、平均気温のグラフでは、2000年までは上昇傾向にあるもののそれ以降は横ばいであるように見える。上昇傾向をどう捉えているか。また、3ページの人口と世帯数に関連して、2030年までの人口の推移はどう見ているのか。 | 現状推計を出すために計算をしているところであるため、2030年の人口や世帯数含めて整理させていただく。 →第3回部会の資料2に示しています。 平均気温については、以前からすると緩やかな上昇傾向にあるものの、ここ数年は横ばいであるという表現に変更させていただく。 |
| 6 | 資料2の4ページの図7のグラフについて、例えば2014年の第1次産業の従業者数について28となっているが、他と比べて桁数が大きく違うため、正しいのか確認をお願いしたい。 | 統計書の数字であるため間違いはないかと思うが、確認させていただく。 →確認した結果、第1次産業の従業員者数は28で誤りはありません。 |

| | | |
|----|---|--|
| 7 | <p>資料3の3ページのCO₂の内訳について、運輸や業務、家庭などといった内訳では、市民からすると何をどう取り組めば良いのかがわかりにくい。この内訳についてはどう考えているか。</p> | <p>国の試算については掴み切れていないが、鉄道や自動車からどれだけか、また、自動車のガソリン購入量や出荷数等から、CO₂削減量に対する活動量の試算を概算で示していきたいと考えている。 →第3回部会の資料2に示しています。</p> |
| 8 | <p>資料3の4ページにおいて、第3次環境基本計画の関連項目が記載されている部分を、関連するSDGsのターゲットや指標を具体化してまとめてみてはどうか。またSDGsの基本理念も盛り込むことで、より関連性がわかりやすくなるのではないか。</p> | <p>第3次環境基本計画の関連項目をシンプルに関連づけたが、SDGsのターゲットや基本理念との関連性についても整理し、どのような形で示すことができるのか、次回以降の部会で報告させていただく。 →第3回部会の資料3に示しています。</p> |
| 9 | <p>資料4について、再エネ×交通、再エネ×地域防災など、再エネが大きく前に出ているが、その他の多様な資源の活用についても検討していただきたい。</p> | <p>再生可能エネルギーを強調したイメージでモデルを提示したが、他の分野の活用についても検討していきたい。 →第3回部会の資料4にモデルを示しています。</p> |
| 10 | <p>枚方市にある雑木林や里山といった地域特性を活かして、木質バイオマスや身近な緑を有効に活用した地域脱炭素モデルを検討していただきたい。</p> | <p>木質バイオマスや緑の活用について、いただいたご意見を踏まえ、検討させていただく。 →第3回部会の資料4にモデルを示しています。</p> |
| 11 | <p>ひとつの建物の冷暖房に使う程度であれば、地中熱利用はとても効率的である。また、夏に太陽光で得たエネルギーを地中に蓄熱し、冬に利用するといったシステムがヨーロッパで進んでいるため、地中熱利用についても検討していただくことで、効率的かつ再生可能エネルギーの利用が進むと考える。</p> | <p>現在、実現が困難であっても、将来のイメージとして、可能な限り計画に盛り込み示していきたい。 →第3回部会の資料4にモデルを示しています。</p> |
| 12 | <p>EV車導入について、充電施設の整備が進んでいないのが現状であるため、枚方市として、そのような整備にも取り組んでいただきたい。</p> | <p>EV車導入を普及していくにあたり、市内に充電設備が整っていないければ普及が進んでいけないため、設備の整備についても検討していきたい。</p> |
| 13 | <p>資料4で示されている地域脱炭素モデルについて、2050年ゼロに向けて不可欠な取り組みではあるものの、現実的には膨大な費用と人員が必要であり、かなり難しいのではないかと感じる。絵に描いた餅にならないように、予算の確保など新しい方向性や施策を考えてもらいたい。</p> | <p>2030年の目標達成には太陽光発電システムの導入をどれだけ進めていく必要があるのか等、計画に具体的に示していけるか検討していく。</p> |

| | | |
|----|---|---|
| 14 | <p>事業所と温対協のアンケートの結果を比較検討することで、支援策もみえてくるのではないかと。また、二酸化炭素の吸収源としても、まちなかの緑を増やしていくことが重要であるため、担当部局と連携して取り組んでいただきたい。最後に、ごみを処理するときに排出される二酸化炭素をいかに排出しないようにするかの取り組みも必要ではないかと。</p> | <p>計画策定に向けて、検討させていただく。</p> |
| 15 | <p>グリーンイフラも含めて、まちなかの緑を考えていくなかで、温暖化対策だけでなく都市の防災などにもつながっていくため、積極的に進めていただきたい。また、緑被面積について、数字だけでなく、どう広がってきているのか、その背景などの状況を把握することで、木質バイオマスの活用や温暖化対策につなげていただきたい。</p> | <p>関係部局と連携し取り組みを進めていくとともに、データを詳細に分析し弱点等を整理していきたい。</p> |
| 16 | <p>SDGs や脱炭素を推進するにあたり、国の補助事業を活用しながら取り組みを進めていく方向があるのであれば、可能な範囲で情報共有していただきたい。</p> | <p>先行モデル都市について、資料4に示したモデルを活用できるのか検討しながら、申請を検討し補助事業の実施についても今後検討していきたい。</p> |

<質問>

- 緑被率について、大きな変化はないようだが、緑の状況は変化していることから、状況を把握することが重要である。例えば、草地面積が増加しているのは農地の利用放棄が増えているのか。
- 緑被率を見ると、年々、園地が増加してきているが、その理由や園地の内容はどういったものか。

<第2回部会の資料2から抜粋>

7ページ ②緑被率の変化と緑被面積の推移



出典：枚方ふるさといきもの調査の調査結果を基に作成

図15 緑被率の変化と緑被面積の推移

<分析結果・・・2012年度と2018年度との比較>

| 項目 | 2012 | 2018 | 増減 | 考えられる理由 |
|-----|--------|--------|-----|---|
| 雑木林 | 481 ha | 462 ha | ▲19 | ★まとまった雑木林がなくなったという状況は見られず、 <u>全域で少しずつ雑木林が減少しているものと考えられる</u> |
| 園地 | 151 ha | 218 ha | △67 | ・東部公園を含む公園の増加による園地の増加 (△15ha) ・山田池公園の南地区の整備による園地の増加 (△10ha) ※「津田サイエンスヒルズ内の植栽」「香里団地内の緑地帯」「グリーンヒル内の緑地帯」は、従来から存在していたが、2012年度調査では、園地として算定していなかった。 ★その他、特徴的な状況の変化は見られず、 <u>全域で少しずつ増加していると考えられる。</u> |
| 農耕地 | 643 ha | 579 ha | ▲64 | ・長尾地区の住宅開発による水田等の減少 (▲1ha) ・耕作放棄地の増加による農耕地の減少 (▲15ha) ・山田池公園の南地区の整備による農耕地の減少 (▲10ha) ★その他、特徴的な状況の変化は見られず、 <u>全域で少しずつ減少していると考えられる。</u> |
| 草地 | 589 ha | 632 ha | △43 | ・耕作放棄地の増加による草地の増加 (△15ha) ★その他、特徴的な状況の変化は見られず、 <u>全域で少しずつ増加していると考えられる。</u> |

※各年度の調査では、概況調査のため、精度に誤差が出ていることが考えられる。